

この PC へのプロジェクション

JJ1SXA/池

一時期は、デスクトップ PC が 2 台、ノート PC 1 台の 3 台体制で、それでも足りない時は、SXB 専用のノート PC を拝借するというような運用スタイルだった。

無線の関係で「eQSO」や「Wires」等のノード局用と、「echolink」「APRS」や「リモートシャック」その他の運用の他、ハムログ等のソフト関係一切をインストールして完全に無線専用機が 1 台だったのだが、無線のアクティビティも下がり、PC も古くなり順次廃棄、1 台の PC で間に合わせていたが、何せ、Win7 の 32 ビットマシンを、段階的にバージョンアップして Win10 で使用しているが、本人もさることながら、本人以上に寄る年波に勝てなくなって (hi)、動作は超重く、超遅くなったし、Win10 のサポートも来年 10 月 14 日に終了するが、この PC は Win11 へのアップバージョンもできないので、新しい Win11 マシンを導入することにした。

前置きが長くなったが、折角の新マシン、使いこなさければと連日取り組んできたが、大分作業も進行少し飽きてきたので、ちょっと別のことを考えた時に思いついたのが Win10 でも使えるが使ってなかった「この PC へのプロジェクション」だ、手順に従って作業を進めたが、最後の詰めに至る手前でトラブルだ。

この機能は、他のパソコンやスマホの画像を無線で受信して表示できるのだ、何しろ従来から狭い部屋に複数の PC を設置しても大きなモニターを並べることができず、1 台のモニターを切り替えながら使っていた、2 入力 1 出力のケーブル切り替え器も使いながら、「TeamViewer」の無料版を使ってリモートで切り替えて使っていた、これは、モニターもキーボード・マウスも 1 台で間に合うのだ、同じことが、「この PC へのプロジェクション」で実現できる筈だが…

勿論スマホの画面を PC に映すだけなら、PC とスマホを USB ケーブルでつないで CAST すれば難無く実現できる。

実際には、受信側のパソコンの準備からで、「設定」画面から「システム」を開き、「この PC へのプロジェクション」を選択、開いたら「オプショ

ン機能」を押し、開く画面で「オプション機能を追加する」にある「機能を表示」を押し、開いた画面で「オプション機能を追加する」にある「機能を表示」を押し、「ワイヤレスディスプレイ」にチェックを入れ、「次へ」を押し、次の画面で「インストール」を押すと、インストールが始まった、これで作業終わりかと思いきや、結果は「インストールできませんでした」でガックリ、早速 NET で調べたら、良くあるケースのようだ。

対策方法はいろいろあるようだが、信頼できそうなページを見つけたので、それに沿って対策をしてみることにする、手順は次の通りで、順番を追って実施しろと書いてある。

1. インターネット接続の確認
2. 従量制課金接続をオフにする
3. ワイヤレスディスプレイを手動でインストールする
4. レジストリキーを変更してワイヤレスディスプレイをインストールする
5. システムキャッシュの消去
6. 別の DNS サーバーに切り替える
7. ウイルス対策ソフトの干渉を確認する

見ただけで、頭が痛くなる、これは、時間と体力、気力を要するようだ、時間は十分あるが、老人には、体力、気力は大問題、昔のある年の伝搬実験の時、5/8λ のアンテナの SWR が 1.2 位から下がらず、翌日早朝に出発予定なのに、結構深夜までかかって、ほぼ 1.0 まで追い込む調整をやったが、あの頃の根性と体力が懐かしい。

考えてみたら、1 項目を 1 日に割り当てれば、トータル 1 週間のことだ、1 日で終わらせようと思うと大変だが、発想を変えれば良だけの話だ、乗りかかった船、何とか完了させよう、だがしばし休憩。

しばしの休憩後、「ワイヤレスディスプレイ」のインストールも完了、これで、受信側の設定は終わりだ、送信側の準備は、Win11 なら、クイック設定にある「キャスト」を選択すれば OK、クイック設定は、「Windows」+「A」キーを押すか通知領域にある「音量」「WiFi」「バッテリー」のアイコンのいずれかをクリックして「クイック設定」を開く、キャストが

無い場合は、鉛筆のアイコンをクリックして「+追加」を押し、「キャスト」を選択する。

私は、Win10 マシンでの実行なので、アクションセンター「接続」から操作だ、「接続」を押して送信先を選択だ、アクションセンターを開くには、「Windows」+「A」キーを押すかタスクバーの右側にあるアクションセンターアイコンを選択（クリック）すれば良い。

これでメインの Win11 マシンのマウスやキーボードでサブの Win10 マシンを操作可能だ、送信の終了は、クイック設定の「キャスト」を押し「切断」を押すか、送信側で「ワイヤレスディスプレイ」アプリを終了する。

この、「Miracast」による伝送と、「TeamViewer」を使って無線での操作との比較では、Miracast による伝送では表示の遅延や画質の低下が生じるので、軍配は TeamViewer の方に上がる。

若い人には、何の問題もなく簡単にできるであろう作業だが、高齢者には、結構大変、まあボケ防止には少しは役立っていることだろうと自己満足だ (hi)

2 台の PC を 1 台のモニターで操作する方法が、「TeamViewer」による伝送、「Miracast」による伝送、「2 入力 1 出力のケーブル切り替え器」使用の 3 ルートができたので安心だ。

ちなみに、ブラウザも現在は「Edge」を使っているが、何時でも即切り替えができるよう「Chrome」と「Firefox」を用意している。

また、我が家の LAN 環境は、デスクトップの Win10PC は有線 LAN、デスクトップの Win11PC と SXB の Win10 のノート PC は無線 LAN で有線・無線 LAN の混合だ、古い PC が無線 LAN に対応していないだけの話だ、無線 LAN にするのは色々な方法があるが、USB 接続タイプの無線 LAN 子機を導入すれば簡単のようだ、値段も数百円単位からあるが、有線 LAN でも特に問題が無いのでそのままにしている。

(2004 年 3 月記)